



Les Paul Standard
Honey Burst

一人の天才ギタリストと、ギブソンの優秀な開発スタッフとのコラボレーションによって1952年に送り出された「レス・ポール・モデル」は、それ以降の電気ギター開発に多くの啓示を与えるものであった。

たとえば、ラミネートされたソリッド・ボディ、各弦ごとに微調整可能なピックアップとそれをコントロールするアセンブリーの形態、ゴールドメタリックという意表をつくフィニッシュ・カラー、それにトップ・ギタリストとの対話によってアイデアや実用性を高めていくという開発手法などである。

そして、このギターの成功により電気ギター開発の基盤を確立した

ギブソンの開発スタッフは、より先進的なノウハウとギター開発へと前進していくのだが、その成果には目覚ましいものがあった。

正確なピッチとテンションのコントロールを可能にしたチューナー・Oマチック・ブリッジ・システム(54年)や、大出力を持ちながら雑音をカットすることができるハムバック・ピックアップ(57年)の開発、プレイヤビリティを追求したシンライン・セミ・アコースティック ボディのES-335の発売(58年)、変形ボディの先駆的作品となったフライングV、エクスプローラー、モダンのコリナー・ギター3部作の発表(57~58年)、電気ギターを木工芸術品のレベルにまで到達さ

せたサンバースト・レス・ポール・スタンダードの発売(58年)、ステージ・アクションの制約をなくす軽量コンパクト・ソリッド・ギターのハシリといえるSGシェイプ・ボディの開発(61年)、量産された初のスルーネック・ボディギターとなったファイアーバード・シリーズ・ギターの発売(63年)などと、50年代から60年代初期にかけては、次々と新しい衝撃をギタリストたちに与え続けたのである。

こうしてギブソンは、すべてのギタリストから絶対的な信頼を寄せられるようになり、フル・アコースティックからセミ・アコースティック、ソリッド・ボディに至るまで、あらゆるタイプの電気ギターを供給できる大メーカーとして業界

に君臨する立場を手中に収め、そして今日古くから培われたクラフトマンシップとその経験にうらうちされた確かな楽器造りの伝統を、より強力に打ち出して、ミュージシャンとのスキンシップによるクリエイティブな活動を行っている。

他の電気ギターメーカーには類を見ない約100年の伝統と、常に先鋭を走ってきた技術開発の気風が、今後新たなギターを作りだしてくるのには不明であるが、ギブソンは合理性と伝統美が美しいハーモニーを作るポストモダンの時代へと、確実に足を踏み入れた。

やはり、ギブソンはギブソンなのである。